



「急性」を含む病名の語構成

相良かおる・高崎智子 (西南女学院大学)
西嶋佑太郎 (医師) 東条佳奈 (大阪大学)
山崎 誠 (国立国語研究所)

知りたかったこと

- ◆ 「～性」が複数含まれ、「急性」を含む病名における、「急性」の語順の特徴
- ◆ 病名における「急性」の意味の重要性
- ◆ 一般的な日本語に比べて、「病名」には「～性」が複数含まれるものが多いか否か

分かったこと

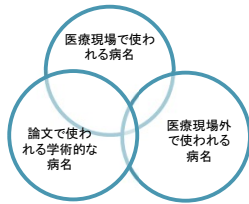


表1&表2より

- (1) 「急性」の語順は、英語表記の語順に影響を受けているものがあることが示唆
- (2) 「急性」には、重要な意味を持たない省略が可能な病名がある
- (3) BCCWJに出現する当該病名の調査から、病名には①学術的なものと、②医療施設で使われる実践的なもの以外の言語使用域を持つものがある
- (4) 一般的な日本語に比べて、病名には「～性」が複数つくものが多いことが示唆

調査結果

表1. 対象病名28語の出現頻度

No.	病名	BCCWJ	医師経過記録	多職種共有経過記録
1	急性アルコール性ショック症	1		
2	急性リンパ球性白血病	1	60	
3 § *	急性リンパ性白血病	2	508	19
4	急性化膿性炎症	1		
5 § *	急性化膿性甲状腺炎	1		1
6	急性化膿性骨膜炎	1		
7	急性化膿性疾患	1		
8 § *	急性化膿性中耳炎	2	6	
9	急性解離性大動脈瘤	1		
10	急性壊死性歯肉炎	1		
11	急性壊死性膀胱炎	1		
12 § *	急性間欠性ポルフィリン症	5	2	
13	急性間質性線維症	1		
14	急性機能性便秘	1		
15 § *	急性骨髄性白血病	12	1,326	18
16	急性細菌性結膜炎	1		
17 § *	急性散在性脳脊髄炎	1	12	
18 *	急性出血性胃炎	1		
19 § *	急性出血性結膜炎	3		
20	急性腺窩性扁桃腺炎	1		
21 § *	急性前骨髄球性白血病	1	58	5
22 *	急性前骨髄性白血病	1	27	4
23	急性熱性疾患	2		1
24	急性熱性病	2		
25 § *	急性汎発性腹膜炎	1	64	5
26	成人急性非リンパ性白血病	1		
27	非細菌性急性胃腸炎	1		
28	非乏尿性急性腎不全	1		

表2. 「急性」を除いた対象病名の出現頻度

No.	「～性」+「病名」	医師経過記録			多職種共有経過記録		
		全頻度	急性～	慢性～	全頻度	急性～	慢性～
1	アルコール性ショック症						
2	リンパ球性白血病	127	60	42	2		
3 § * † ‡	リンパ性白血病	563	508		23	19	
4	化膿性炎症	5					
5 § * †	化膿性甲状腺炎				6	1	
6	化膿性骨膜炎						
7	化膿性疾患	1			1		
8 § * † ‡	化膿性中耳炎	78	6	66			1
9 † ‡	解離性大動脈瘤	201		1	42		
10	壊死性歯肉炎	2					
11 † ‡	壊死性膀胱炎	93			1		
12 § *	間欠性ポルフィリン症	2	2				
13	間質性線維症						
14 †	機能性便秘	5					
15 § * † ‡	骨髄性白血病	1,526	1,326	169	47	18	25
16 † ‡	細菌性結膜炎	21			12		
17 § *	散在性脳脊髄炎	12	12				
18 * †	出血性胃炎	80			6		
19 § *	出血性結膜炎	1					
20	腺窩性扁桃腺炎						
21 § *	前骨髄球性白血病	58	58		5	5	
22 *	前骨髄性白血病	27	27		4	4	
23	熱性疾患	28			2	1	
24	熱性病						
25 § * † ‡	汎発性腹膜炎	342	64		56	5	
26	成人非リンパ性白血病						
27	非細菌性胃腸炎						
28	非乏尿性腎不全						

注) 表2の「全頻度」は、「～性」+「病名」の出現頻度を、「急性～」は「急性」+「～性」+「病名」の出現頻度を、「慢性～」は、「慢性」+「～性」+「病名」の出現頻度を表している。
“§”と“*”は、表1を再掲。表2の“†”は、“§”同様に標準病名マスターに「～性+病名」が登録されていることを、“‡”は“*”同様にComeJisyoUtf8-3の見出し語にあることを示す。

言語資源と調査方法

【言語資源】

1. BCCWJ Ver.2021.03
2. ComeJisyoUtf8-3
3. ICD10対応標準病名マスター-V5.04
4. 匿名加工済み医師経過記録
データ量: 3,255,371行 596MB
5. 匿名加工済み多職種共有の経過記録
データ量: 3,361,282行 135MB

【調査手順】

- 手順 1. 匿名加工済みの①医師経過記録と②多職種共有の経過記録、各1施設1年分のデータにおける対象病名の出現頻度を求める。
- 手順 2. 対象病名の「急性」を対義語の「慢性」で置き換えた語の出現頻度を求める。
- 手順 3. 対象病名から「急性」を除いた語の出現頻度を求める。
- 手順 4. 語構成および各語構成要素の意味分類を行う。

謝辞

本研究はJSPS科研費JP18H03499ならびにJP21H03777の助成を受けています。

関連URL

- 国立国語研究所(編)(2022).『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』(データバージョン2021.03,中納言バージョン 2.6.0) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/> (2022年8月5日確認)
- CiNii Research <https://cir.nii.ac.jp> (検索: 2022年8月4日)
- ComeJisyo <https://ja.osdn.net/projects/comedic/>
- Google Scholar <https://scholar.google.com/schhp?hl=en-US&pli=1> (検索: 2022年8月4日)
- ICD10対応標準病名マスター <https://www2.medis.or.jp/stdcd/byomei/index.html>
- 日本医学会 医学用語辞典 WEB版 <https://jams.med.or.jp/dic/mdic.html>

調査の限界と今後の課題

今回出現頻度を求めた経過記録データは、2施設2種類であり、経過記録を代表するデータではない。また、約11万語のComeJisyoの見出し語は、実践医療用語を代表するものではない。

引き続き「～性」を複数持つ合成語について、以下の調査を行なう。

- (1) 接辞「性」の役割と省略
- (2) 連結された「～性」の意味役割

おわりに

医療の知識を持たない筆者は、「急性」⇒「進行が早い」⇒「緊急度が高い」⇒「重要な語」⇒「語順に影響」と考える。しかし医療関係者は、「急性」と「緊急度」を区別して認識し、例えば「急性骨髄性白血病」「慢性骨髄性白血病」との比較で、「急性」「慢性」という要素からは、時間経過の情報を取り出しているのではなく、別の病気であるという標識程度の意味合いで認識している可能性がある。

改めて、合成語を医療の観点からみた語の単位(語構成要素)に語分割することは大切なことであると考えている。